

株式会社ヤマザキ 2022年3月期
第2四半期決算説明資料

2021年11月

6147



目次

- (1) 株式会社ヤマザキとは P.3
- (2) 2022年3月期第2四半期の業績・財務情報 P.10
- (3) 2022年3月期 通期業績予想及び今後の戦略 P.16
- (4) 多角化事業 P.23

(1) 株式会社ヤマザキとは

創業・創立

創業 1946年3月1日

設立 1960年9月1日

沿革

- 1946年 山崎好夫が浜松市寺島町に山崎鉄工所として創業、楽器部品及び専用機・治工具の製造を開始
- 1954年 浜松市浅田町に移転しオートバイ部品の受注を開始
- 1960年 法人組織に改組し株式会社山崎鉄工所を設立
- 1964年 浜松市有玉北町(現在地)に移転し事業拡大を図る
- 1968年 ドリルユニットをはじめとする省力化機器の製造販売を開始
- 1972年 商号を株式会社ヤマザキに変更
- 1987年 第13回発明大賞功労賞を受賞
- 1990年 設立30周年。資本金9億5,840万円に増資し株式の店頭登録 (現JASDAQ,証券コード番号6147)
- 1991年 本社新社屋完成
- 1992年 都田テクノポリス内にテクニカルセンター完成
- 2000年 ホーニング部門を新設
- 2003年 浜名湖浄化技術発掘事業に参加
- 2004年 ベトナムに現地法人YAMAZAKI TECHNICAL VIETNAM CO.,LTD.を設立
- 2004年 ジャスダックに上場
- 2020年 九州営業所(福岡県京都郡)を設置
- 2020年 株式会社ラックランド及び同社子会社 株式会社ハイブリッドラボとの資本業務提携の締結
- 2020年 ホーコス株式会社と合併会社 HYテクノロジーズ株式会社を設立

事業内容

- ◆省力関連機器製造販売(FMSユニット・インデックステーブル・スピンドルユニット・多軸ヘッド・タレットヘッド・ドリルユニット・タップユニット・その他)
- ◆専用工作機械、マシニング、ホーニングマシンの製造販売
- ◆オートバイ(2輪)、自動車(4輪)部品の製造販売
- ◆電子機器の製造販売
- ◆その他

主要取引先

アイシン・グループ／株式会社IJTT／愛知機械工業株式会社／株式会社アツミテック／いすゞ自動車株式会社／カワダ株式会社／株式会社クボタ／京浜精密工業株式会社／上海日立電器有限公司／GKNドライブラインジャパン株式会社／ジヤトコ株式会社／スズキ株式会社／株式会社SUBARU／ダイハツ工業株式会社／株式会社椿本チエイン／株式会社デンソー／トヨタ自動車株式会社／トヨタ自動車九州株式会社／日産自動車株式会社／日本電産トーソク株式会社／浜松ホトニクス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／PT Astra Honda Motor／本田技研工業株式会社／本田金属技術株式会社／マツダ株式会社／株式会社ミクニ／三井精機工業株式会社／三菱自動車工業株式会社／三菱重工業株式会社／株式会社山田製作所／ヤマハ発動機株式会社／UDトラックス株式会社

事業内容

◆省力関連機器製造販売（FMSユニット・インデックステーブル・スピンドルユニット・多軸ヘッド・タレットヘッド・ドリルユニット・タップユニット・その他）

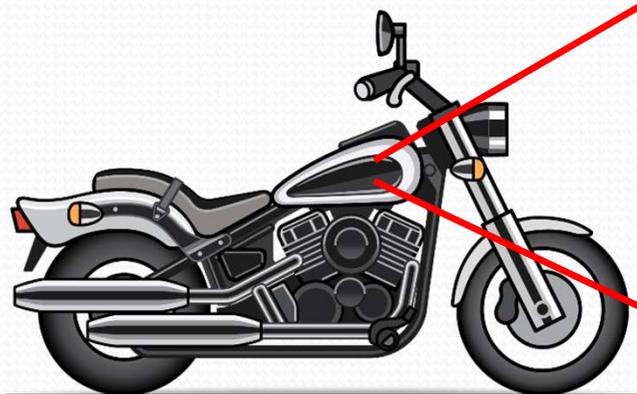


◆専用工作機械、マシニング、ホーニングマシンの製造販売



事業内容

◆輸送用機器部品の製造



◆その他

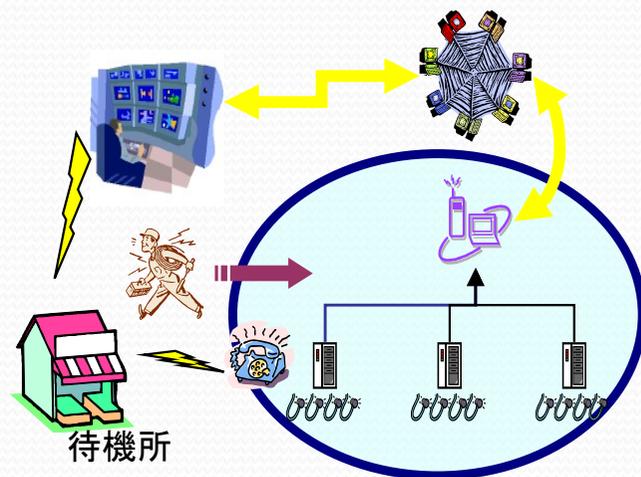
- ・設備用測定器の製造販売(プルメーター)



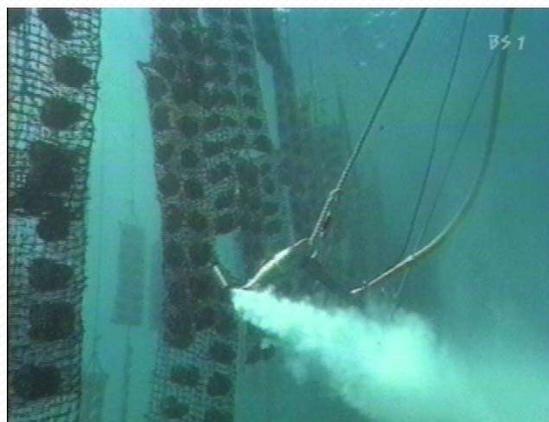
事業内容

◆その他

- ・FA-NET: 機械・設備の故障予知から復旧をサポート



- ・マイクロバブル技術



経営信条

お客様(の生産)に寄り添い世界中で必要とされる会社を目指しています

経営方針

1. お客様第一
お客様に寄り添い、お客様の立場で考え、お客様の課題への最適な提案に努めます。
2. 生産技術立社
生産技術の研鑽に努め、生産設備の最適化を提案します。
3. 環境整備の徹底
規律・清潔・整頓・安全・衛生を徹底します。
4. グローバル化への対応
グローバル化を目指します。



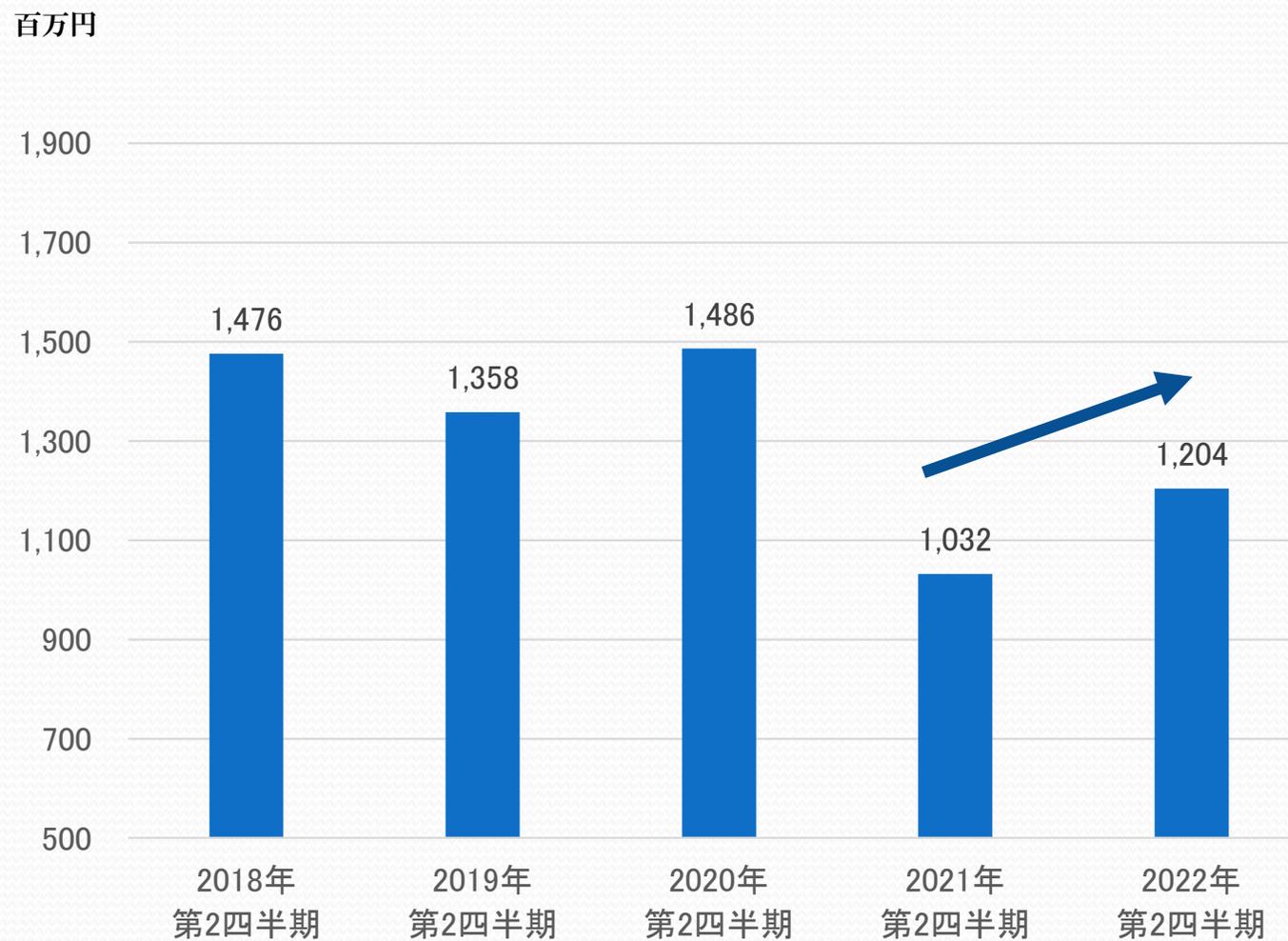
(2) 2022年3月期
第2四半期の業績・財務状況

決算概要

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期
(百万円)					
売上高	1,486	3,666	1,032	2,317	1,204
営業利益	4	129	△224	△375	△133
経常利益	0	126	△221	△369	△127
親会社株主に帰属する 純利益	5	85	△226	△378	△125
配当(円)	—	10	—	15	—

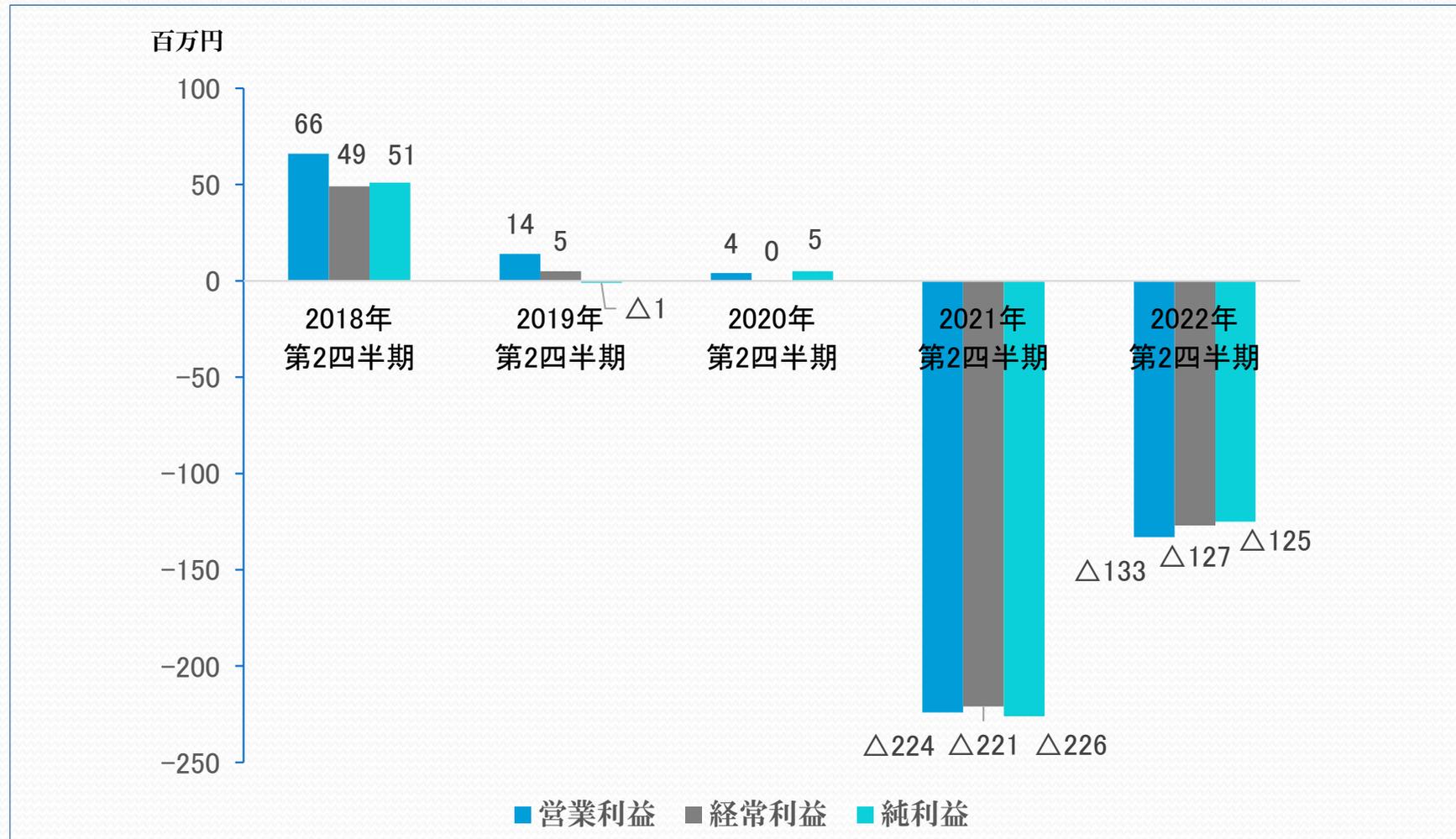
- ◆売上高は、工作機械事業において、新型コロナウイルス感染症の影響により、半導体不足による納期遅延等が発生したものの、輸送用機器事業の販売回復により増加した
- ◆利益は、前年同期に比べ回復したものの、本来の売上高水準までには至らず損失を計上した

売上高の推移



輸送用機器事業の販売回復により、売上高は増加した

収益の推移



前年同期に比べ回復したものの、本来の売上高水準までには至らず、損失となった

セグメント別業績推移

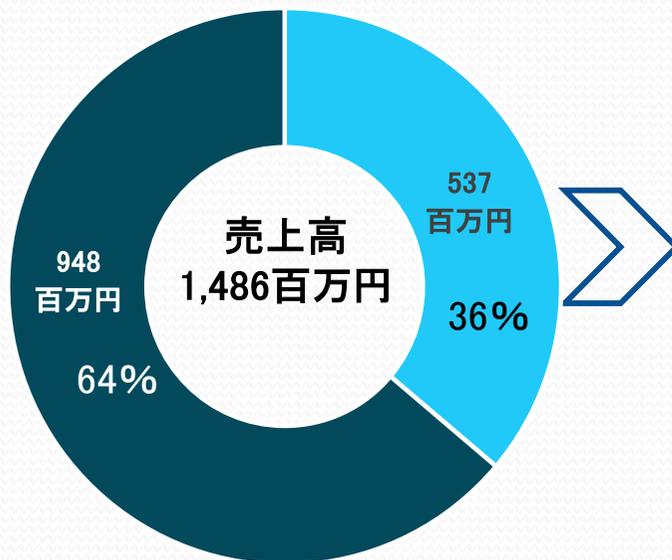
	(百万円・%)	2018年 第2四半期	2019年 第2四半期	2020年 第2四半期	2021年 第2四半期	2022年 第2四半期
工作機械事業	売上高	823	804	948	650	637
	セグメント利益	44	9	16	△161	△129
	セグメント利益率	5.2%	1.1%	1.7%	—	—
輸送用機器事業	売上高	652	554	537	382	566
	セグメント利益	14	△1	△18	△66	△0
	セグメント利益率	2.1%	—	—	—	—

※ 2021年3月期第1四半期より「自動二輪車等部品事業」を「輸送用機器事業」に名称変更しました。

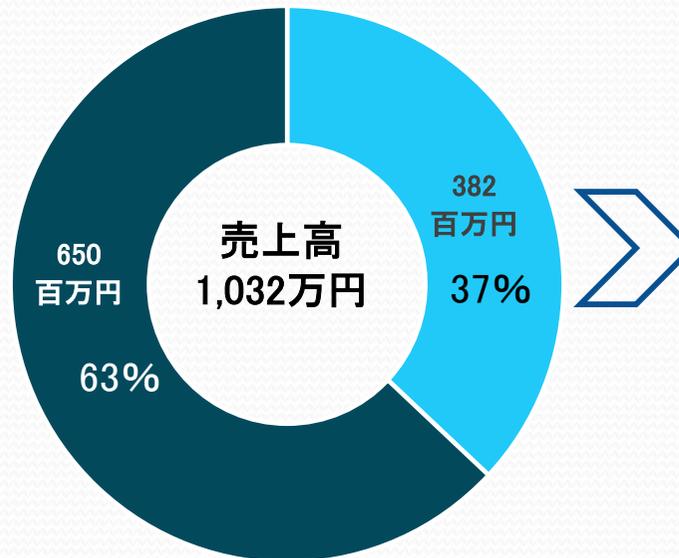
2021年第2四半期は、輸送用機器事業において新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見られ、売上高、セグメント利益共に前年同期を上回った

セグメント別売上高の変化

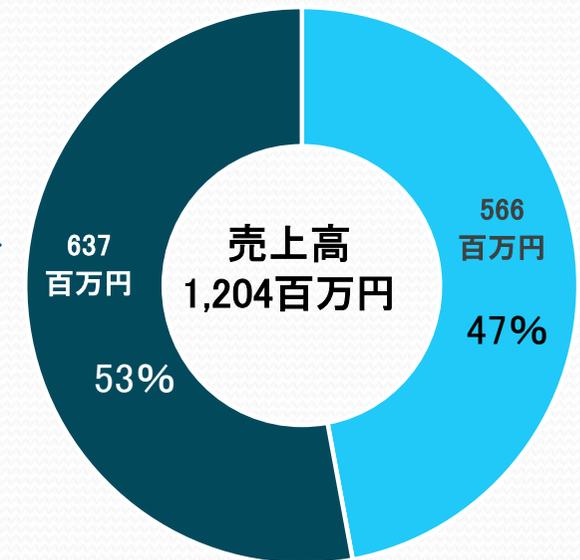
2020年3月期第2四半期



2021年3月期第2四半期



2022年3月期第2四半期



■ 工作機械事業 ■ 輸送用機器事業

輸送用機器事業において、売上高におけるシェアが増加した

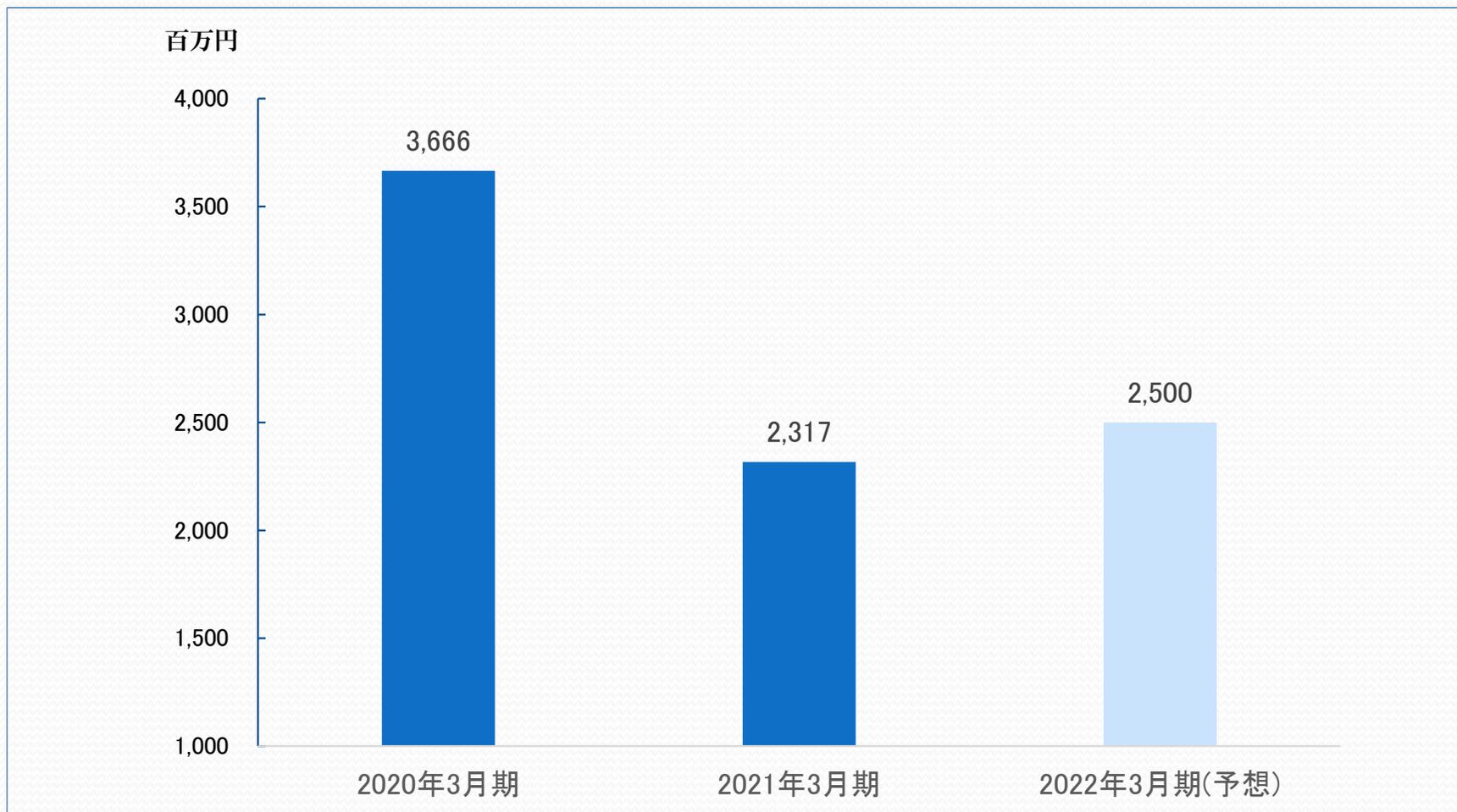


(3) 2022年3月期 通期業績予想及び今後の戦略

2022年3月期の業績予想①

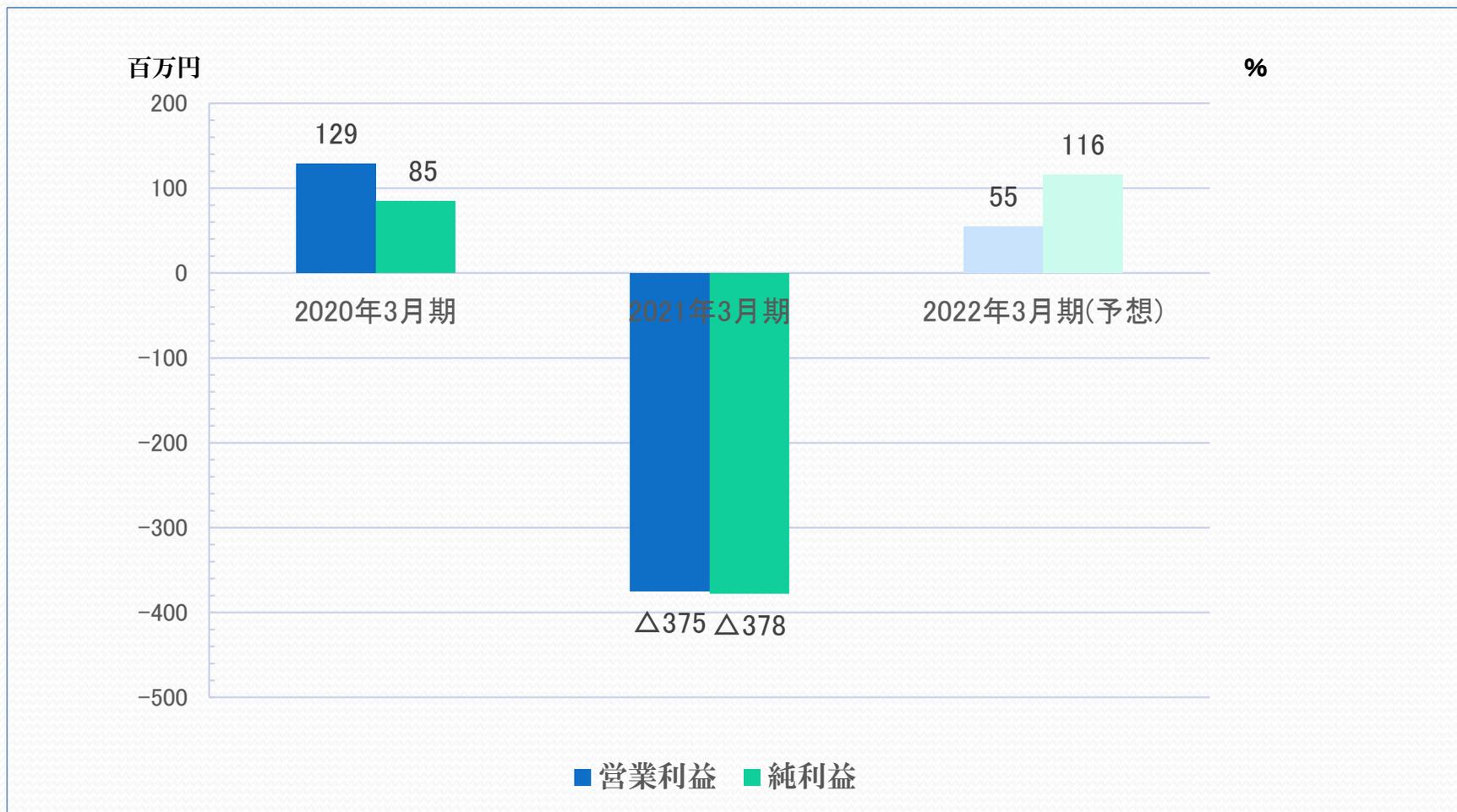
(百万円)	2020年3月期(実績)	2021年3月期(実績)	2022年3月期(予想)	前期比増減
売上高	3,666	2,317	2,500	7.9%
営業利益	129	△375	55	—
営業利益率	3.5%	—	2.2%	—
経常利益	126	△369	50	—
親会社株主に帰属する純利益	85	△378	116	—
配当(円)	10	15 (記念配当5円含む)	10	—

2022年3月期の業績予想(売上高)②



◆実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

2022年3月期の業績予想(収益)③

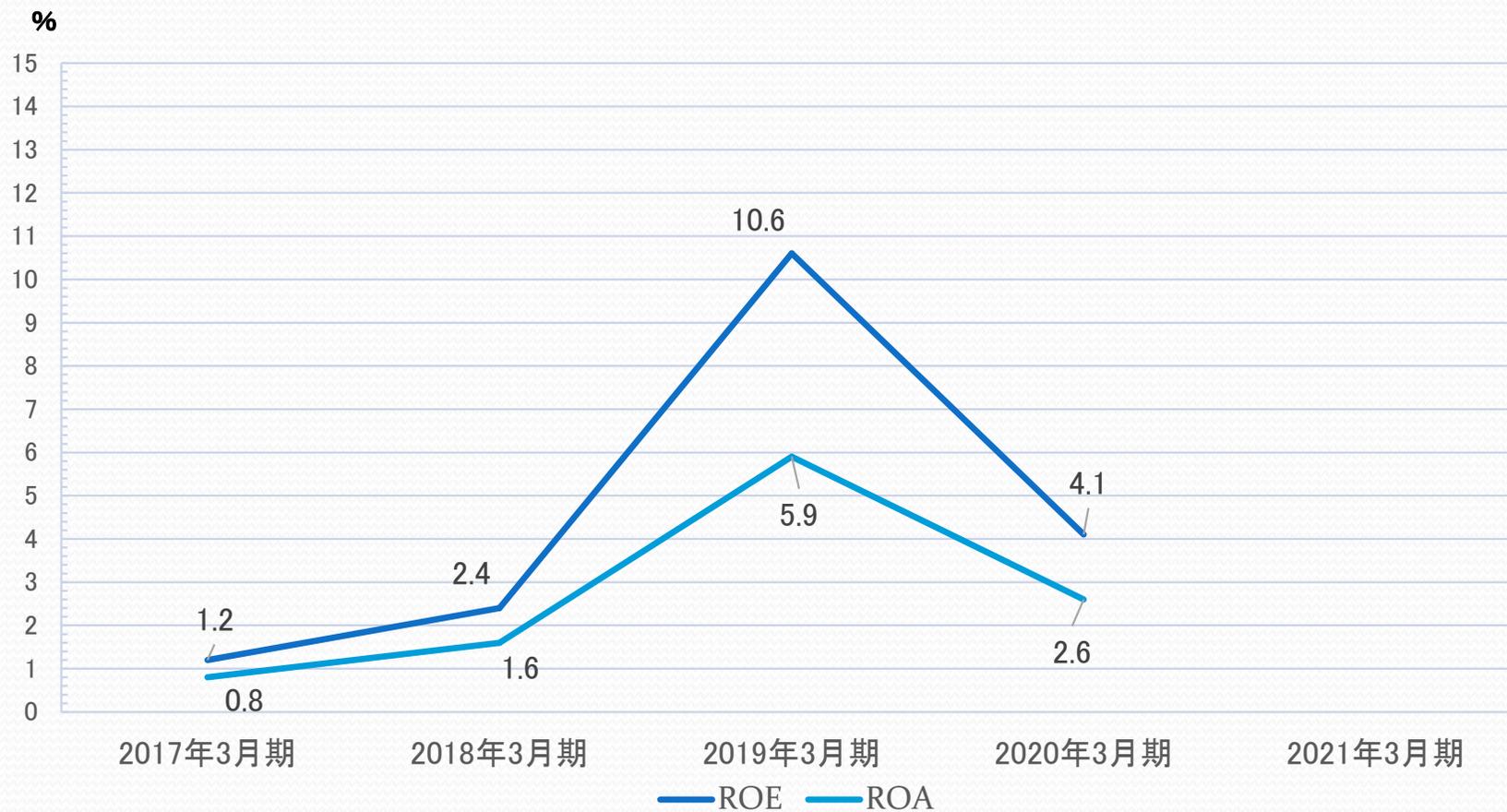


◆次期は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、不透明な部分があります

今後の戦略

全体戦略	<ul style="list-style-type: none">◆顧客第一主義◆環境整備で日本一を目指す◆生産技術立社を目指す◆グローバル化への対応
工作機械事業	<ul style="list-style-type: none">◆500種類以上のユニットと専門技術を駆使した提案型営業の強化◆専用加工機メーカーから精機メーカーへ(より精密な製品を提供する)◆メンテナンスビジネスの強化
輸送用機器事業	<ul style="list-style-type: none">◆2輪部品以外の量産部品販売の強化◆EV化による4輪部品形態の変化に合わせ、部品メーカーと連携強化
グローバル戦略	<ul style="list-style-type: none">◆ベトナムの現地法人を拠点としたアジア展開の強化
今後の投資方針 資本政策	<ul style="list-style-type: none">◆継続的なROE・ROAの改善を目指す◆継続的・安定的な配当を目指す

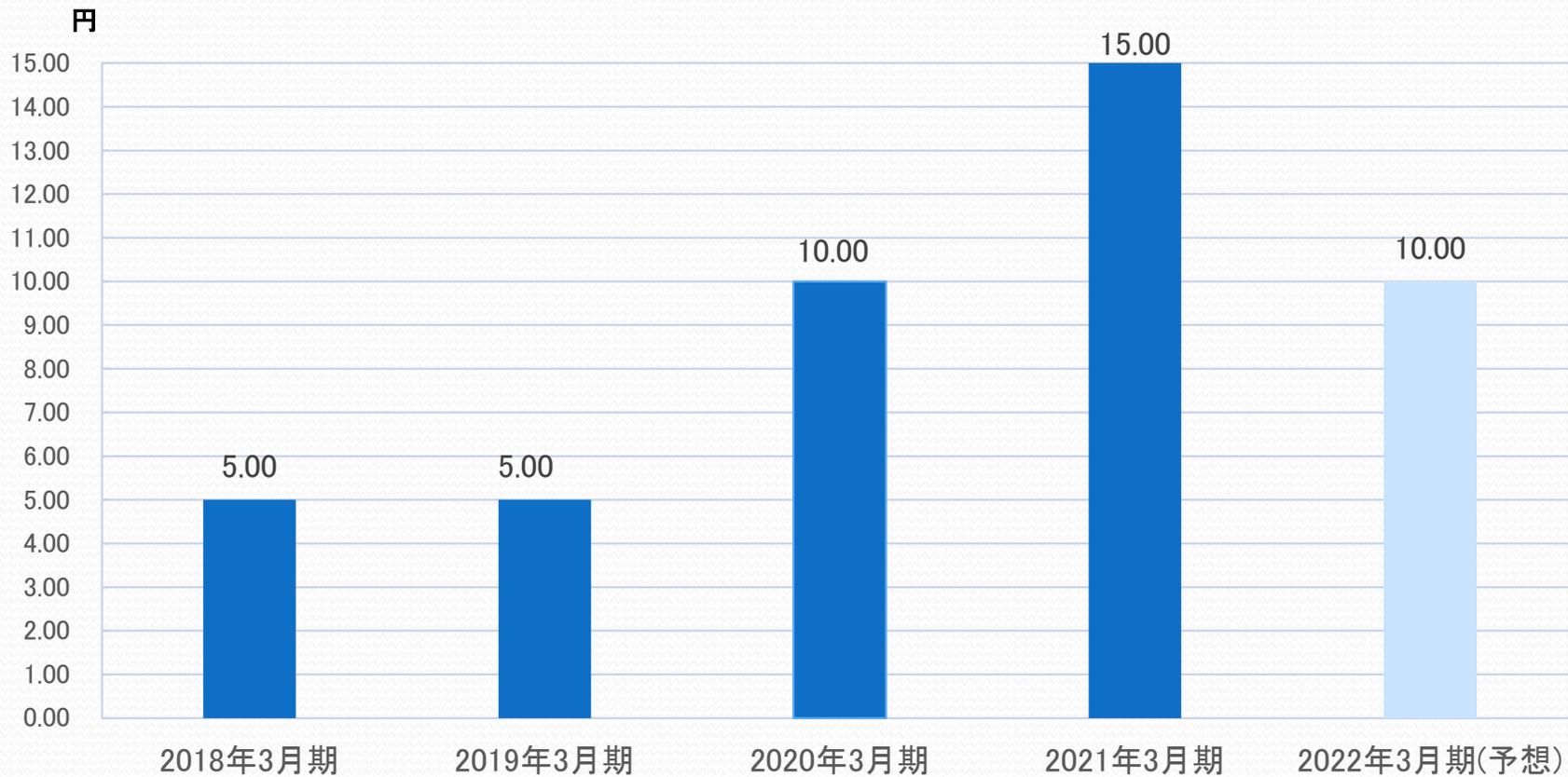
ROE ・ ROA



ROE = 自己資本当期純利益率

ROA = 総資産経常利益率

配 当 金



2021年3月期については、普通配当10円・記念配当5円を実施
2022年3月期(予想)については、普通配当10円を予定

(4) 多角化事業

①マイクロバブル事業～食品加工分野で実用化を目指す

	内容
<p>◆マイクロバブル事業とは</p> <p>発生時において気泡径がごく微細な気泡を活用する事業</p> <p>◆活用範囲</p> <ul style="list-style-type: none">・水質浄化・水産養殖・部品洗浄・飲料水加工・加工食品の製造・医療 など	<p>■株式会社ラックランド及び同社子会社ハイブリッドラボとの資本業務提携締結しました。</p> <p>・2020年7月、三者での資本業務提携を締結しました。</p> <p>株式会社ラックランド及びハイブリッドラボ社の協力を得ながら、かねてより開発及び実用化を進めてきたマイクロバブル技術を利用した貝毒除去等の食品加工技術・設備の研究・開発・製造を行うことで、更なる用途拡大を目指す共に、長年培ってきた工作機械の技術を活かしつつ、新たな事業の確立に向け、更なる企業価値向上を目指します。</p> <p><掲載ホームページ> https://www.yamazaki-iron.co.jp/ir/news/</p>

②メンテナンスビジネス～合併会社設立

	内容
◆メンテナンスビジネス	<p>■ホーコス株式会社と合併会社(HYテクノロジーズ株式会社)を設立しました。</p> <p>・両社は共同で、主にホーコス株式会社製 既存設備の「メンテナンス・改造・転用」を主ミッションに活動し、さらなる信頼向上と事業拡大を目的とする窓口として、新会社(HYテクノロジーズ)を設立しました。</p> <p><掲載ホームページ> https://www.yamazaki-iron.co.jp/ir/news/</p> <div data-bbox="994 1034 1648 1150"></div> <div data-bbox="994 1198 1675 1262"><p>HYテクノロジーズ株式会社</p></div> <div data-bbox="987 1294 1592 1477"></div>

③自動車(4輪)部品の生産

内容

◆あらたな量産部品

■2022年1月より、自動車(4輪)部品の量産を予定しております。

- ・2輪部品の生産ノウハウを生かし、4輪部品の生産ライン取り込みを開始
- ・EV化による4輪部品形態の変化に合わせ、部品メーカーと連携強化

